

インフルエンザ治療について

わかまつクリニック通信

インフルエンザの患者さんが徐々に増えてきました。
特に、学校に行っている子供に多いようです。
今回は、インフルエンザが心配される場合の対応についてまとめました。

《症状》

まずは、どのような症状の場合インフルエンザを疑うのでしょうか。
様々な報告から症状をまとめてみます。

- 1) 発熱、咳、咽頭痛：7割以上の患者さんに認めます。
- 2) 鼻汁鼻閉、筋肉痛、頭痛：5割以上の患者さんに認めます。
- 3) 嘔気・嘔吐、下痢、腹痛：1割から2割の患者さんに認めます。

一般的には、今までの季節性インフルエンザの症状と違いは認めません。
インフルエンザ以外の風邪との見分けも難しいくらいです。

(今までのインフルエンザより腹部症状は多いとは言われていますが)
そのため、診断のため大事なのはその人の置かれている環境要因から想像する事になります。

インフルエンザが流行している時に上記の症状が出現した場合はインフルエンザを強く疑い対応してゆく事になります。

現在、インフルエンザの診断のために簡易キットがあります。
しかし診断能力は約6割と言われており、発症初期ではさらに陽性率は低くなります。そのため、この検査が陰性でもインフルエンザは否定できません。

(ただし陽性の場合には自信を持って治療できるので疑わしい場合は検査するのですが)
わたしは、現在の状況ではインフルエンザによる重症化を予防するためにも疑わしい患者さんには積極的に抗インフルエンザ薬を使用するようにしています。
最近厚労省も疑わしい患者さんへの積極的治療を推奨しています。

VOL. 4

わかまつ呼吸器内科

2009年9月26日

《加療時の注意点》インフルエンザとして加療を受けていく際の注意点を記載します。

✿まず高い熱は苦しそうですしなんとかしたいと思うでしょう。

しかしここで熱を下げてはいけません。

基本的にウイルスは熱に弱いため高熱はウイルスをやっつける上で有効なのです。

無理に解熱剤を使用すると治りが悪くなります。

✿さらに注意しなければいけないのは、ある種の解熱剤はインフルエンザの時に使用するとライ症



候群と呼ばれる非常に重篤な病気を引き起こす可能性が指摘されています。

基本的にはアセトアミノフェンと呼ばれる薬は比較的安全とされていますので、インフルエンザの患者さんにはこの薬を使用します(あまり強い薬ではないのでそれほど熱は下がりませんがそれで良いのです。(少しでも熱が下がって患者さんがちょっと楽になれば良いのですから)くれぐれも自宅にある何か分からない解熱剤は使用しないようにしてください。

使用して良い薬：カロナール、ピリナジン、アルピニー座薬

使用してはいけない薬：ボルタレン、ロキソニン、アスピリンなど

→裏へ

体を少し冷やしてあげるのは大丈夫ですので、頭や脇を気持ちが良い範囲で冷やしてあげましょう。

※あと注意すべきは脱水です。

高熱の上に水分が十分に取れていないと急激に具合が悪くなります。

スポーツ飲料などをちょこちょこ飲ませて脱水にならないように気をつけてください。

※最後にインフルエンザ治療薬に伴う合併症です。

以前報道にてだいぶ有名になりましたが、治療薬に伴う異常行動が報告されています。

10歳代の子供に認めた事からこの年齢の患者には慎重投与を行うように指導が行われています。しかし新型インフルエンザの流行に伴いこの原則は守る事が難しくなってきました。

10歳代の患者さんの重症例が報告されるようになったためです。

そのため、副作用は承知の上で早期に投与を開始する事が必要と思われます。

くれぐれも投与開始後2日間は患者さんから目を離さないようにご注意ください。

さて最後にインフルエンザの重症化を疑わせる症状につき説明いたします。

現在、危険な徴候として報告されている症状は以下のものです。

インフルエンザ様症状改善後の

- *再発熱や咳の悪化、
- *激しい持続性の嘔吐、
- *頻呼吸や呼吸困難、
- *胸部や腹部の痛み・圧迫感、蒼白・チアノーゼ、
- *水分摂取不良、
- *めまい、
- *意識あるいは意思疎通不良

上記の症状が出現した時はインフルエンザ肺炎や脳症を疑わなければいけません。至急医療機関へ連絡しましょう。

(このとき、インフルエンザの可能性につき必ず話してください)

以上、少しでも皆様の参考になりそうな事を記載してみました。
参考にしていただければ幸いです。何かご質問があればご連絡ください。
なお、今回の内容はわたしが色々な資料をみて独断でまとめたものです。
他の医療機関と統一された見解ではない部分もありますのでご了解ください。

わかまつ呼吸器内科クリニック 若松俊秀

